

会議録

1 附属機関の名称

犬山市歴史まちづくり協議会

2 開催日時

平成30年12月12日（水） 午前10時30分から午後0時00分まで

3 開催場所

犬山市役所 201 会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

越澤 明、荻谷勇雅、柴田浩行、柴山一生、長谷川良夫、成瀬淳子、間瀬道男、小川秀史、野口哲也、桜井種生、光清毅、中村浩三、永井恵三

牧野 勉（オブザーバー）

(2) 執行機関

（歴史まちづくり課）中村課長、野村課長補佐、加藤主査補、奥村

5 報告事項・議事

報告事項：歴史まちづくり関連事業の経過について

議 題：平成30年度犬山市歴史まちづくり賞について

最終評価シート（案）について

第2期犬山市歴史的風致維持向上計画（案）について

6 傍聴人の数

0人

7 内容

○あいさつ（市長、越澤会長）

※事務局より連絡

- ・平成30年6月1日より犬山市の附属機関に位置づけられている委員会は基本的に公開し、傍聴が可能となる。会議資料と会議録の市HPへの掲載が原則となる。
- ・署名人は長谷川委員と光清委員に決定。

2. 報告事項

歴史まちづくり関連事業の経過について

〈意見・質疑特になし〉

3. 議題

議題 1：平成30年度犬山市歴史まちづくり賞について

事務局より、資料2に沿って説明を行った。

《質疑応答》

荻谷委員：歴史まちづくり賞受賞者の表彰式は実施するか。

事務局：市民の前で表彰式を行うという事は昨年もやっていないが、表彰状を各受賞物件に訪れて、その場で渡すという事は昨年同様実施する予定である。また、その様子を広報やHPに掲載する予定である。

越澤会長：昨年度の様子を教えてください。

事務局：一軒一軒回り、受賞者は非常に喜んでおり、今後もこの景観を守っていかねばならないという気持ちになっていただけたと思っている。

議題 2：最終評価シート（案）について

事務局より、資料3に沿って説明を行った。

《質疑応答》

越澤会長：最終評価シートは、今日の協議会で国に提出する予定か。

事務局：そうである。

越澤会長：今日の段階が終わると、案が取れたという事になるのか。

事務局：委員の皆様からご意見をいただき、それを事務局で確認、検討して最終の提出を考えている。

越澤会長：最終評価シートに関するご意見を事務局に提出するタイムリミットはいつか。

事務局：今年中くらいを目途に、ご意見いただきたい。

荻谷委員：城下町への観光客が増えて活性化しているのは分かるが、風情に欠けるような商売のやり方が多くなっているのではないか。活性化するにつれて歴史的な外観が変わってきているように感じるため、今後の歴まち計画の中に、城下町の品格を保つような内容を盛り込まなければならないと思う。

長谷川委員：最終評価シート21ページの全体の課題の中に、下本町の建物についての記載がなく、後の計画案の中にも記載がない。下本町の街並みが観光客の流れを止めており、例えば堀部邸の来客数が6000人という事で記載してあるが、この数字はあまりにも少ないと思うので、城下町の人流れが止まってしまっていることによって起こっている事だと考える。

また、下本町の建物は建築された年代から見ても、耐震的な検査が不明な非常に危険な建物である。新しく立て直すのは難しいかもしれないが、何かあった時に大きな被害をもたらしてはいけないので、建物をどうするかを第2期計画に記述

する必要がある。

事務局：今の段階では、建物の構造や耐震強度の把握はできていないのが現状だが、まちづくりの観点では、朝市の実施や新しいお店の出店が増え、また、テレビ番組では城下町の雰囲気と、その奥の雰囲気が全然違うことが、面白いというような形で放映されており、新しい魅力として感じる人がいることも事実としてある。ただ、街並みの連続性については確かに途絶えているため、人の回遊性は高めていきたいと思っており、他課とも協力しながら取り組んでいきたいと思う。そのため、記載が明確にないという点に関しては、課内で検討する。

越澤委員：最終評価シートの項目等は市の判断でいろいろ作っているのか。

事務局：最終評価シートについては、提示されている様式であるため、計画に載っている内容のみの評価になるが、課題としてとらえることは可能。

越澤委員：計画書の趣旨に添って、市として努力してきた事は書き加えても良いと思うので国と相談しながら進めていってほしい。

議題3：第2期犬山市歴史的風致維持向上計画（案）について

事務局より、資料4に沿って説明を行った。

《質疑応答》

長谷川委員：60ページ記載の葱蓼酒についての内容が、非常に古い情報であるため、直すべき。

事務局：了解した。

長谷川委員：また、134ページに堀部邸の防災対策の記述が無いため、記述が必要。

事務局：計画の中に記載されてる事業に関しては、基本的に実施計画やある程度裏付けのあるものを挙げてあるため、まず担当課に確認する。

苅谷委員：55ページに記載された町衆文化という言葉が適切かどうかの議論はあったか。

事務局：不足していたかもしれない。

苅谷委員：だめではないが、町衆とはなんだ、犬山にはどのような町衆がいたのかという話になりかねないので、答えられるようにしておく必要がある。

それに関連して、如庵が商工業者を中心とする町衆によって移設され保存されているということで良いと思うが、58ページにて、如庵が町衆文化の建造物として分類されているが、これはむしろ武家茶道になるのではないかと思う。

また、防災街区や本町通りを中心とする城下町景観の整備、修景について第2期計画に記述無しというのはいけない。内容の薄い観光地にならないためにも、行政と市民がちからを入れて修景や整備を行わなければ、一時的な商業発展で終わってしまう。

事務局：143ページの事業⑩に城下町バナーワーク事業があり、住民及び事業者を含めてワークショップを進めており、広告物のガイドラインを話し合う中で自主的に決めていこうという取り組みを今決めているところであり、このような事業が予定されているということを付け加える。

越澤会長：如庵については、武家茶道の象徴の一つということで、これは、項目として独立させた方がよいか。

事務局：ご指摘のように、町衆文化の定義をはっきりとさせたいので、町衆とは違うが関連する建造物として非常に貴重なものだという書きぶりができたらと思うため、課内で考えたい。

越澤会長：如庵の価値をもっと書き、後は構成をどうするかである。

12月26日に3省庁合同ヒアリングがあるので、12月20日くらいまでに、気づいた点があれば事務局に伝えてほしい。

基本的には第1期計画の流れを受けながら、特に犬山市として整備事業や石上げ祭りの調査等、かなり充実している所が前回と違うように思われる。

■ その他（事務局説明）

別紙の資料に沿って説明を行った。

【意見・質疑】

荻谷委員：犬山城の修理事業について、修理で使用する構造用合板の厚さはどれくらいか。

事務局：12mmである。

荻谷委員：梁の抜け落ちを防ぐ金具は、どういう物か。

事務局：アンクルで作り、抜け落ちたとしても、そこからの落下を防ぎ、受けるだけの物である。そのため、梁が抜け落ちたとしても梁自体が落下しないようにする、床板が抜け落ちないようにするという目的で付ける。

荻谷委員：名鉄ホテルの件について、開発予定のホテルの外観が歴史的風致に調和するかどうかというのは、市で十分把握しているのか。

事務局：事前審査会を実施しており、その審査会の前に、個別に建築側と協議をしている。そのため、開発予定のホテルの外観については、個別に対応している。

荻谷委員：外観に対する市の審査は、どういうものか。

事務局：建築については景観計画の適合性を審査するため、都市整備部の都市計画課が担当しているが、より連絡を密にとって建物に関しては審査していく。審査の内容としては、一般的には色や、外観の装飾等になるが、これについては市の景観計画の基準に基づいて審査していく。

荻谷委員：景観審議会を設置しているか。

事務局：設置している。

荻谷委員：景観審議会ではホテルの件は審議対象になるか。

事務局：対象となる。ホテル敷地内にある犬山城の堀跡に関しては、これからも大切に保存していただくよう申し出をしている。現段階では、相手も配慮するとの回答をいただいている。

4. その他

(1) 国宝犬山城天守保存修理事業について

意見特になし

(2) 名鉄犬山ホテルの建て替えについて

委員：如庵はできるなら動かさないでほしい。

事務局：ホテルの運営会社のインターコンチネンタルホテルズグループが、文化財を非常に大切にしている会社だと聞いているため、如庵も大切に有効に活用していると考えている。